

2020 年度会員御希望の方へ

申込日 年 月 日

龍谷大学福祉フォーラム入会申込書

龍谷大学福祉フォーラムに、下記のとおり入会申込みをします。

フリガナ	
お名前	
ご住所	〒 -
電話番号	
E-mail アドレス	
ご職業	
属性	該当する□にチェックをしてください。 <input type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 本学卒業生 <input type="checkbox"/> 本学学生
図書館利用カード	該当する□にチェックをしてください。 <input type="checkbox"/> 希望する <input type="checkbox"/> 希望しない
備考	ご質問・ご要望などありましたらご記入ください。

FAX: 077-543-7771

個人情報の取り扱いについて

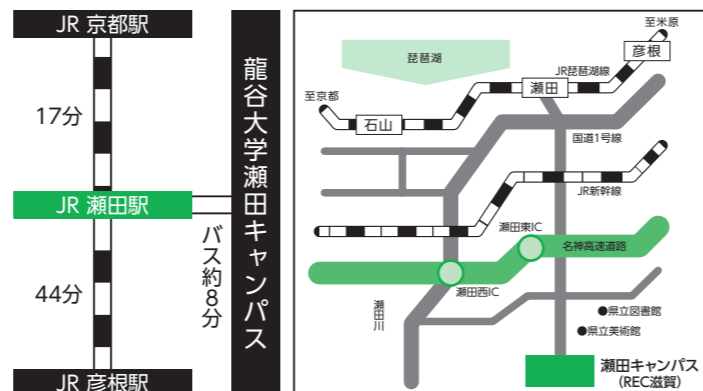
上記で伺いました個人に関わる情報は、個人情報保護法及びこれに準拠した学内の取り決めに従い、厳正に情報を管理し、本学事業以外には利用いたしません。

お問い合わせ

龍谷大学福祉フォーラム事務局 (REC 滋賀)

〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1-5
 Tel 077-544-7291 Fax 077-543-7771
 E-mail r-fukushi@ad.ryukoku.ac.jp
 ホームページ <http://rec.seta.ryukoku.ac.jp/fukushi/>

JR 琵琶湖線「瀬田」駅下車
 帝産バス「龍谷大学」行き(約8分)
 名神高速「瀬田西IC」(大阪方面から)
 「瀬田東IC」(名古屋方面から)より
 文化ゾーン方向へ車で約5分【駐車場有】
 ※駐車台数に限りがあります。



福祉フォーラム通信



第20回専門セミナー

『どのようにして後輩の気づきを導き、成長を促すか?』を開催

日時：2019年6月22日(土) 10:30~16:30 (開場:10時、閉場:17時)
 会場：龍谷大学 瀬田学舎 2号館 多機能教室1・2
 講師：青木 将幸氏 (青木将幸ファシリテーター事務所代表)

傾聴トレーニングを受けていることが多い対人援助職や社会福祉職にある人々であっても、日々の業務の忙しさ故に、職員同士の丁寧なコミュニケーションに十分な時間や労力を割けていないことは少なくない。その結果、後輩等の職員が直面している課題について共に向き合ったり、思考を促したりすることが難しくなっている状況も見受けられる。

そこで本セミナーでは、ミーティング・ファシリテーターとして全国各地で活躍されている青木将幸氏を講師に迎えて、「きく」ことを改めて捉え直すワークショップを行うこととした。まず参加者一人ひとりが普段の他者との関わりにおいて留意していることを共有した。その上で、実際に自分がどのように「きく」を行っているのかを他者に観察してもらって、フィードバックを受けるセッションに取り組んだ。ここまでの参加者の様子を

踏まえて、青木氏からは「思考の言葉だけではなく、感情や身体感覚の言葉も聴いてみよう」という投げかけがあり、「ミニカウンセリング」という手法での「きく」を全員が試みることとなった。

話し手の邪魔にならないように質問を行わないなど、普段とは異なる意図的な聴き方をする/される経験を通じて気づいたことが最後に分かち合われたが、わずかな時間であっても、日常のコミュニケーションを減速させることで、やり取りの質が大きく変わることを見出したようであった。他にもいくつかのアクティビティが提供されたが、そのことが多角的な視点からの自己内対話を促し、よき内省の機会にもなったのではないかとと思われる。

<文責：川中 大輔>

(参加者の声)

- ★受講した事がないセミナーだったので、とても新鮮な気持ちで学べた。気づきがたくさんあり今後の職場や仕事に生かしていきたいと思った。
- ★話す事の大切さを学びました。人の話をじっくり聴く事も(聴き方)学べました。そして何より色々な話ができ、色々な方と出会えた事が財産になりました。
- ★後輩にというより自身の振り返る営みを通じて様々な手法や「しつらえ」の工夫を学ことができました。対人援助だけにとどまらず仕事や関係性の中での学び方に大いに生かせると思います。



第21回専門セミナー

『社会調査を理解する～量的調査、はじめの一步をふみだそう～』を開催

日 時：2020年1月25日(土) 10:00～15:45

研修 1：「社会調査とは何か」 ■担当講師 猪瀬 優理（龍谷大学社会学部准教授）
社会調査の定義・種類、量的調査の手順、調査票の作成、サンプリング方法
実習：調査票調査で用いる設問を作成する。

研修 2：「調査票調査の方法」 ■担当講師 津島 昌弘（龍谷大学社会学部教授）
データの電子ファイル化、データの基礎的集計、調査報告とデータの管理
実習：コンピュータを用いて、データ分析を行う。

会 場：龍谷大学瀬田キャンパス6号館

第21回専門セミナーは、当初は、2019年10月12日(土)に開催する予定でしたが、台風19号接近により、受講生の皆様の安全を考えて取りやめとなりました。しかし、今年度も希望される皆さんに「社会調査の基礎」を自分の業務に照らし合わせワークをする時間がより実践につながることにしてお伝えする機会を是非持ちたいと思い、日を改めて開催することになりました。10月12日にご受講予定で、1月25日にはご都合がつかずに受講できなかった皆様方には心よりお詫び申し上げます。

さて、当専門セミナーは、社会調査のうち、量的調査の基礎的な部分について、実習を通して学ぶ講座とし、主に以下の3つを目的として開催いたしました。

- (1) 社会調査の経験がない人に、基本的な知識と方法を伝えること。
- (2) 社会調査を行う場合に、最低限押さえておくべきポイントについて伝えること。
- (3) 社会調査のデータ処理を、コンピュータを用いた実習を通して学んでもらうこと。

今回、ご受講された皆様に少しお話を伺いましたところ、それぞれに職場の業務を円滑に進めたり、今後の業務方針の改善等のためにエビデンス

を必要とされたりといったご事情をお持ちで、社会調査に御関心を持たれているということが分かりました。実際的な業務上の課題解決にヒントを求めてご受講された方々には、今回の専門セミナーは基礎となる概要をお伝えするだけですから、隔靴搔痒の想いを持たれたかもしれません。

しかし、社会調査は、科学的な方法論を用いて実施・分析されてこそ、有意義なものとなります。今後は、量的調査の基本的なポイントを押さえず、個別の必要に応じた調査を提案するセミナーなどが開催出来たら面白いかもしれない、と考えています。

<文責：猪瀬 優理>



(参加者の声)

- ★自分の業務に照らし合わせワークをする時間がより実践につながると感じました。
- ★仕事上、データ分析を行いたいと考えていた。参加してスキルアップにつながった。
- ★社会調査の基礎的な部分から実践まで、トータルで学ぶことが出来てよかった。

第17回共生塾

『農福連携で人をつなぐ、地域をむすぶ』を開催

日 時：2019年11月30日(土) 13:30～16:30

会 場：瀬田キャンパス2号館多機能教室

事例報告：保科 政秀 氏（農業生産法人有限会社ポニーの里ファーム統括マネージャー）
鈴木 健太郎 氏（株式会社オーガニックワン 代表）
林 正剛 氏（NPO法人Hub's 代表）
杉田 健一 氏（NPO法人縁活マネージャー）

ワークショップファシリテーター：林 正剛 氏（NPO法人Hub's 代表）

コーディネーター：坂本 清彦（龍谷大学社会学部准教授）

農業と福祉をつなげ、障がい者や就労困難者などの地域・社会参画を促す「農福連携」の取り組みが全国に広がっています。

福祉フォーラムでは、第16回共生塾「農福連携と地域社会との共生」（2019年2月2日開催）の成果をふまえて、第17回共生塾「農福連携で人をつなぐ、地域を結ぶ」を2019年11月30日に開催し、農福連携事業を契機に人と人、地域と地域を結ぼうと活動する2つのグループをお招きしました。

お招きしたのは、奈良県吉野町の林産資源を活用し、同県高取町の農業生産法人「ポニーの里ファーム」などが参画して、障がい者や高齢者が農業現場で利用できるバイオトイレの開発を目指す「バイオトイレプロジェクト」と、滋賀県栗東市のNPO法人「縁活おもや」を中心に、農福連携の一環で中山間の耕作放棄対策にこんにゃく芋を栽培し、地域でのこんにゃくづくりとを結びつける「こんにゃくプロジェクト」です。

両プロジェクトともに企画・構想から開始間もない段階で、製品開発上の課題発見や、展開方向を探っています。そのため本共生塾では、社会福祉、まちづくり、農業、工学などの知的・人的リソースを持つ本学学生や教職員、地域住民のアイデアを取り上げるための参加型のワークショップを行いました。

参加者を2グループに分け、プロジェクトごとの背景・経緯の説明を受けた後、参加者から様々

なアイデアを出してもらいました。それぞれのプロジェクトを実際に動かすにあたり、とても有用なたくさんのアイデアが出されただけでなく、アイデアを出すためにプロジェクト関係者を含む参加者同士が議論を繰り返すことで、プロジェクトそのものの理解も深まりました。

これからは福祉フォーラムでは、農福連携といった福祉を契機に地域社会を結びつけるさまざまな取り組みの紹介や、協働の機会を関係者や本学学生・教職員に提供していきたいと考えています。

<文責：坂本 清彦>

(参加者の声)

- ★ワークショップの参加者からの福祉現場のアイデアの数々に圧倒されました。
- ★新しい地域づくりについて、自身も何か考えてみたいと思った。良い機会になりました。
- ★今まで環境にめぐまれていないとばかり思っていたのですが、少し前向きになれるセミナーでした。

